低温日照不足に対する水稲の技術対策について

令和元年７月９日
埼玉県農林部

７月４日気象庁発表の１か月予報では、向こう１か月の天候の見通しは、気温は低く、日照時間は平年並か少ないとしています。
また、７月８日発表の早期天候情報では関東甲信地方では向こう２週間は気温の低い日が多く、７月１４日頃から５日間程度は平年に比べかなりの低温が見込まれます。
それぞれの作型にあわせて対策をとりましょう。

１　水稲の生育状況

早期栽培では、生育は草丈が低く、分げつが遅発ぎみで軟弱な生育をしています。
早植栽培では、生育は降雨のため中干しが弱めとなり分げつの切れ上がりが悪く、日照も少ないことから軟弱気味の生育をしています。
普通栽培の田植え作業は、概ね平年並みの６月末に終了しました。

２　今後の生育予測

早期栽培では気温の低い日が多いことから、出穂期は並からやや遅れるものと予想されます。
早植栽培では気温がやや低く、降雨も続くと予想されていることから、分げつの切れ上がりや葉色の低下が遅れ軟弱ぎみに推移するものと予想されます。
普通栽培では気温は７月後半以降は平年並みになると予報されていることから、生育初期にやや遅れぎみでも回復し、平年並みに推移するものと予想されます。

３　技術対策

（１）深水管理

早期栽培では、穂ばらみ期であり、低温の影響を受けやすいので最低気温が２０度以下の予報が出た場合は深水管理に心がけましょう。

（２）病害虫防除

病害虫防除所が発表するいもち病（葉いもち）感染好適日条件出現状況に留意し、早めの防除を心がけましょう。

農薬を使用する際は、以下のホームページ等を参考にしてください。

- 埼玉県病害虫防除所
  http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/index.html
- 独立行政法人農林水産消費安全技術センターホームページ内の農薬登録情報提供システム
  http://www.famic.go.jp/